

今月の御教え

生きている時だけ天地金乃神のお世話になるように思っている者もあるが、死んでもお世話にならなければならぬ。魂は神からお下げくださったものであるから、天からのお暇が出たら、また神のおひざ元に納まり、体は地から生じたものであるから、地に納まってお世話にならなければならぬ。

……「天地は語る」第五十七条……

解説

西条教会初代教会長・高橋音五郎師は、若年時より、激しい気性で「神仏に助けを乞い、お蔭を求めるのは迷信である」と公言してはばかりませんでした。しかし、二十七歳の時、川之江教会初代先生の神徳により、それまで、大金を投じて呼び寄せた名医達にも治せなかった母親の大患が、一夜にして全快した奇蹟を目前にして「天地の親神様の存在と限りなき慈愛」を痛感させられました。それより心機一転、この道に深く傾倒し、一心に精進する中に「私達人間は、生死を通して、全て大天地の親神様の大きいなる神徳の中に生かされている」ことを実感したのでした。そして川之江教会初代先生の厚い信頼のもと、西条の地に赴き、人々を助け導かれました。その時、お蔭を頂いた方々の信心が、代を重ねて皆様方に継承され、今日、冒頭の御理解に触れ得たのは何と有り難いことではないでしょうか。私達は日々信心の稽古に勤しみ、この天地の道理なる御教えをわが身に頂いて「安心立命」の境地に到りたいものであります。